

家畜ふんの堆肥化のポイント

生産環境部 副主査研究員 片山晃志

畜産分野では毎年約8,000万トンの家畜排せつ物が発生しています。これは東京ドームの約65杯分にも及びます。

今回は家畜ふん尿の活用方法のひとつである堆肥化のポイントについて紹介します。

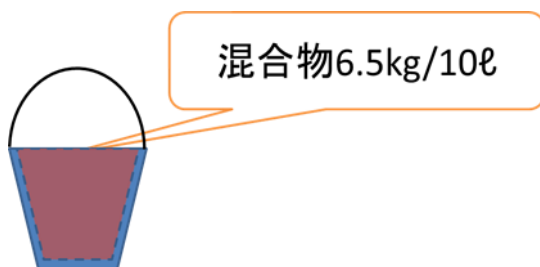
(1) 堆肥化

①堆肥化は好気性微生物が易分解性有機物を分解することです。

家畜のふんだけでは堆肥はできません。ふんにオガクズ等の副資材を混ぜ、通気性を確保し、水分含量の調整を行ってください。

②混合物比重0.7（容積重700kg/m³）以下が最適です。

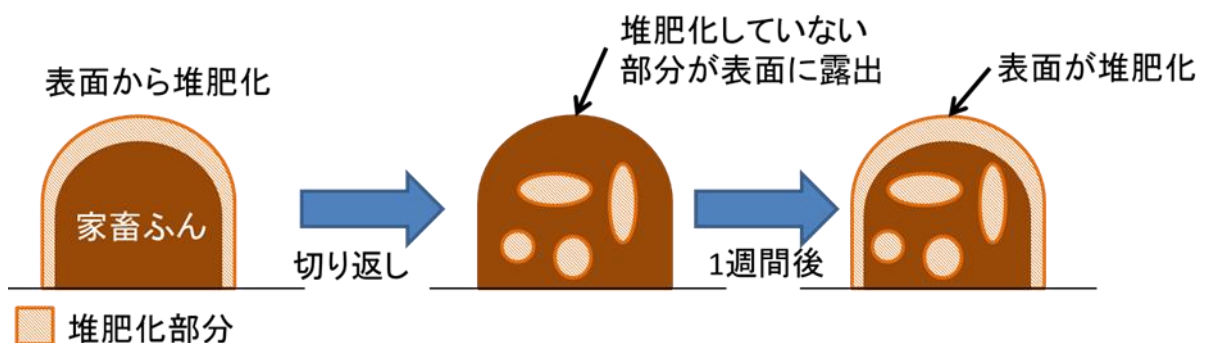
・家畜ふんと副資材を混ぜ、10ℓのパケツに摺切りいっぱい入れたときの重さを7kg以下にすると、適度な通気性と水分含量が得られます。



(2) 効率よく堆肥化を進めるために

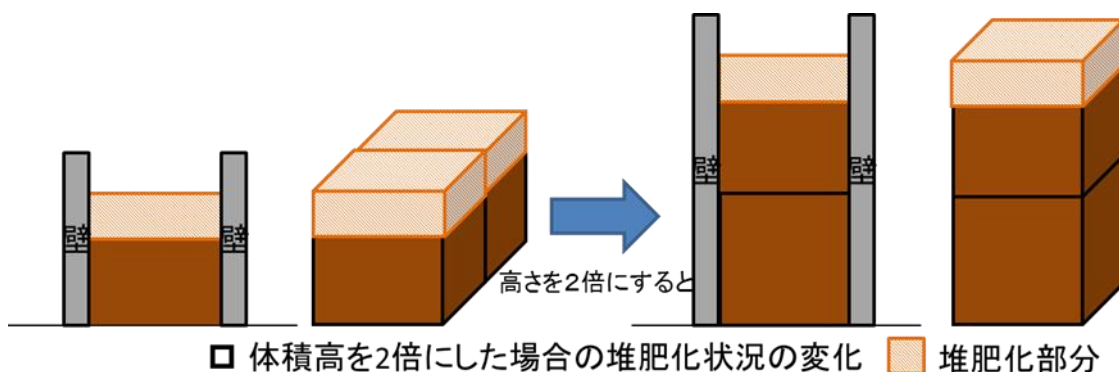
①切り返し

・空気に触れる表面から内部に向けて堆肥化が進みます。7～10日ごとに1回切り返しを行い、深部にあった家畜ふんを露出させ堆肥化を進めてください。3～4ヶ月程で堆肥が出来上がります。



②表面積（空気と接する面積）を大きくする

・ 空気と接する面積を大きくすることで、堆肥化が効率よく進みます。床面積を小さくし高く積むと、空気に触れる面積が小さくなるので、堆肥化に時間がかかってしまいます。



(3) 良質な堆肥のチェックポイント

①温度

・ 切り返すごとに発行が進み堆肥化が進むと、温度上昇がだんだんなくなってきます。温度上昇がなくなったら、その時点が堆肥化終了の合図です。堆肥の温度を測りながら、堆肥化の進み具合を確認してください。

②色、形状、臭い

・ 堆肥化が進むにつれ、黄褐色から黒褐色へと変わり、細かくサラサラした形状になります。出来上がった完熟堆肥を臭いを嗅ぐと、土に似た臭いがします。

発行：和歌山県畜産試験場

〒649-3141 和歌山県西牟婁郡すさみ町見老津 1 番地

TEL 0739-55-2430

FAX 0739-55-4020

Eメール e0704011@pref.wakayama.lg.jp